

令和7年度予算編成方針

令和7年度より福知山モデルの具現化を目指す第2期中期計画も折り返しを迎える。同計画に基づき本年4月に大学院地域情報学研究科を設置、さらに昨年度公表した学士課程教育改編方針のもと令和8年度のカリキュラム刷新、基盤教育院の設置、教職課程の開設など様々な改革の諸準備を進めていかなければならない。

一方で財政状況は、この間計画的な学生確保を通じて運営費交付金や学納金などの収入確保に努めてきたが、近年はそれを上回る勢いで人件費や諸物価が高騰するなど年々厳しさを増している。このため、今後は中長期視点で安定した財政運営を実現するため、収入においては引き続き運営費交付金や授業料、入学料、検定料などの着実な確保に努めるとともに、事業実施にあたっては受託研究や補助金、寄附金など多様な外部資金の獲得を念頭に置いて進める必要がある。加えて既存事業の見直しによる経費削減だけでなく、DX推進を通じた大学業務の質的向上と効率化の両立にも取り組んでいかなければならない。

このような背景のもと、令和7年度予算編成にあたっては以下の3項目を重点項目に位置付けて、限られた資源を最大限有効活用しながら中期目標の着実な実現を図っていくこととする。

【予算編成における重点項目】

(1) 学士課程教育改編の実現

令和8年度の学士課程教育改編や教職課程等の実現にむけ、教職員の確保や教育研究体制を充実

(2) キャンパス整備構想等に基づく施設整備

(1)の教育改革を実現するための中長期視点に立ったキャンパス整備を推進するとともに、インフラ長寿命化計画に基づき老朽化した施設設備を更新

(3) 情報基盤の充実による大学運営の効率化の推進

更新時期を迎える各種業務システムの更新や独自のシステム導入・開発など情報基盤の充実を通じて、大学運営の業務効率化を推進